

(13) 統計学教育における授業モデル

サイバー・キャンパス・コンソーシアム統計学グループは、22年7月、9月、12月、23年2月の4回開催し、学士力の実現に求められるICT活用の授業モデルの検討を行った。

社会に出た後から問題解決に統計的な能力が活用できることを目指して、すべての学生が教養として統計の読み方、利用の仕方を適切に身に付けられるようにするため、他の専門科目との連携の中で、卒業までに統計の知識と技能が活用できる授業デザインを3例とりあげることにした。

一つは、社会におけるデータと統計の役割・限界を理解できるようにするため、課題に対する因果関係の探求に、グループワークとブレインストーミング等によるディスカッションを対面授業やLMS上の掲示板で行い、振り返りさせる授業モデルとした。

二つは、問題解決場面での統計の活用の仕方を実践的に学ばせるため、分析ソフトウェアを使ったグループワーク、小規模の問題解決プロジェクトにより、主体的な分析態度と統計手法を批判的に判断する能力を身に付けさせる授業モデルとした。

三つは、統計的な問題解決のプロセスを学ばせるために、社会人や大学院生も含め社会での問題を対面授業やWeb上で整理させ、仮説の設定、検証データの収集を通じてPDCAによる妥当性の検討を行わせる授業モデルとした。